

「座右の銘や政治家としての目標は？」

●髭紳士さんからの質問

西田先生の座右の銘や政治家としての目標を教えてください。

●西田昌司の答え

私の座右の銘は、佐藤一斎という江戸時代の儒学者・陽明学者の言志四録の中の一節です。

「一灯を掲げて暗夜を行く。暗夜を恐るること勿れ、只一灯を頼め。」

これを解説すると、「一つの提灯をぶら下げて暗い夜道を歩くと、自分の提灯以外は何も見えません。怖くなって歩めなくなりますが、恐れることはありません。自分の持っている一つの提灯のみを頼りに歩き続ければ良いのです」という内容であり、非常に奥の深い意味があります。

私も人生の中で色々な困難にぶつかることが多々あります。絶望感に襲われる時くらい人間の命を簡単に失わせてしまう状況はないと思います。色々な理由で絶望に陥る方も多いと思います。真っ暗で本当に恐ろしく感じられます。そのような時に、自分に照らしている一つの提灯、すなわち自分の心の中の炎のことですが、小さくて周りから吹き消されてしまいそうな心の灯を絶やさずに歩いていけば、必ず暗夜を抜け出せられると思うのです。

私の場合、十数年前に色々な事があり、ある種の絶望感に打ちひしがれたことがありました。その時に救ってくれたのが、この佐藤一斎の言葉でした。私は年が変わる度に新しい手帳にこの言葉を書きます。いつもこの言葉を思い出して頑張っていこうと思っています。座右の銘については、この言

葉をお話しすることが多いです。

政治家としての目標については、たまたまこの状況下で政治家として選ばれたわけですから、佐藤一斎の言葉通りに、自分の一灯を頼んで歩き続けるしかないと思っています。目標はあまりありません。歩き続けた結果が、自分だということです。そういう気持ちでやっていきたいと思っています。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>